

奈弓連だより

通巻 242号

令和4年4月号
発行 奈良県弓道連盟
会長 西中正
編集担当 松澤和実 中西省五
連絡先：henshu@narakyudo.jp

令和4年度の始まりに向けて

奈良県弓道連盟 会長 西中正

令和4年4月10日審査講習会終了後、評議員会が開催され事業報告、決算報告が承認され、監査報告がありました。その後、規約の改正案が提案・可決されました。文言の表現の整理と文言の現状に合わせた変更、近年高額化が進む大会参加費への対応などの内容となっています。続いて4年度事業計画、予算案の概要が説明・提案され、承認されました。特に、審査会については、令和4年度は中高生の審査においても参集形式を予定しております。また、中堅層講習会の2回目の日程が10/9から10/10に変更されました。なお、公苑道場の安土整備を近畿行事が始まる前に実施予定です。改めてアナウンスしますので、皆様のご協力をお願いいたします。

新しい役員、スタッフを紹介いたします。1月にお知らせしておりましたが、長く副会長を務めてこられた深田紀美子氏が顧問に、副会長に松村由紀子氏が新任されました。また、財務部長に中西康馨氏が新任されました。各役員、業務分担については2022年度便覧にてお知らせさせていただきます。

今年度は連合会行事を担う当番県であり、多忙な運営となります。錬士臨時中央審査や地区指導者講習会など奈良県弓道連盟で運営することになります。コロナ禍であり、予定変更もあるかと思われませんが、滞りなく行事を執り行えますよう皆様のご協力をお願いいたします。

令和3年度3月地連審査

初段33名、三段57名、参段6名、四段2名、五段3名が合格

3月13日(日)20日(日)の両日、ロート奈良弓道場及び橿原公苑弓道場に於いて、審査会が行われました。3月地連審査は受審者数に偏りがあったので、20日は奈良会場に集約する事になり、日程及び会場の変更を頂いた受審者の皆様に感謝申し上げます。

今回も五段審査が地連で行われ、和歌山県から田中康

昇段おめでとうございます

3月地連審査会(13日ロート奈良弓道場、20日橿原公苑弓道場)において次の方々が昇段されました。

四段

田中 孝之さん (奈良支部)

瀬戸 雅弘さん (生駒支部)

五段

八木 ひろみさん (五條支部)

多田 昌世さん (奈良支部)

長谷部 好子さん (奈良支部)

おめでとうございます。(事務局)

雄先生と京都府から加藤裕昭先生が審査員として参加されました。

今年度の審査会が無事に終了できましたこと、審査員長をはじめ審査員の先生方、日程、会場調整にご尽力頂いた先生方、お世話いただいた担当支部の皆様にお礼申し上げます。

来年度からも引き続き、コロナ対策が必要で、運営も密を避け、受付はグループごとに時間帯を決めて行います。開会式・矢渡しはなく、合格発表も後日各支部、学校へお知らせするので、行射後は速やかに帰宅していただく事になります。

学科審査は来年度もレポート形式で審査申込書に添えて提出することになっております。今回の審査会で学科解答用紙の相違(旧用紙使用)が数枚ありました。解答用紙は必ずHPに記載の物(A4サイズ)を使用、1枚に収め、問題も記入し、審査申込書に添えて提出してください。また、各支部、学校で取りまとめる担当責任者は確認をお願いします。

3月審査結果は次の通りです。

3月13日地連審査(奈良)

級位	受審者1名	1級査定1名
初段	受審者4名	合格者4名
三段	受審者2名	合格者1名

四段 受審者 1 名 合格者 1 名

3月13日地連審査(樫原)

級位 受審者 2 名 1 級査定 2 名

初段 受審者 1 名 合格者 1 名

3月20日地連審査(奈良)

級位 受審者 3 名 1 級査定 3 名

初段 受審者 8 名 合格者 8 名

貳段 受審者 8 名 合格者 7 名

参段 受審者 15 名 合格者 5 名

四段 受審者 16 名 合格者 1 名

五段 受審者 17 名 合格者 3 名

令和3年度3月ビデオ審査結果

3月13日ビデオ審査(樫原)

級位 受審者 88 名

1 級査定 33 名、2 級査定 33 名、
3 級査定 20 名、現級 2 名

初段 受審者 17 名 合格者 10 名

貳段 受審者 23 名 合格者 15 名

3月13日ビデオ審査(奈良)

級位 受審者 55 名

1 級査定 49 名、2 級査定 4 名、現級 2 名

初段 受審者 14 名 合格者 7 名

貳段 受審者 45 名 合格者 29 名

3月20日ビデオ審査(樫原)

級位 受審者 81 名

1 級査定 21 名、2 級査定 54 名、
3 級査定 5 名、現級 1 名

初段 受審者 8 名 合格者 3 名

貳段 受審者 7 名 合格者 5 名

(審査部 松村由喜子)

令和4年度第1回中央審査講習会

中央審査に向け、密度の濃い講習会に

新年度の最初の連盟行事である第1回中央審査講習会を、4月10日に樫原公苑弓道場にて密にならないよう午前午後の二部制にして開催しました。主任講師を須田三郎先生、講師を西中正先生にお願いし、ご指導をいただきました。

午前中に錬士・六段受審者の17名、午後に教士・七段・八段受審者の18名が参加しました。

午前中は、一手行射の後、錬士受審者は、持的射礼を「取り懸けの間合い」「物見返しの間合い」の2回研修を行いました。2回続けての射礼で、本番以上に長い

跪坐の時間がある練習となりましたが、1回目の注意点を2回目ですぐに修正でき良い研修になったのではないのでしょうか。錬士受審者は射技指導を一手1回、六段受審者は射技指導を一手4回受けました。

一手行射の講評では、西中先生から、「入場前の控えのところから澄ましができておらず、弦をくるっと回したり、入場口の後ろでの余計な動きが見えたりしている」「跪坐で膝を生かすが、膝を生かす前に腰を一旦下ろして坐ってしまっている。腰は下ろさず最初からしっかり生かしておかないといけない」「弦調べ篋調べで顔が動きすぎる」「肌脱ぎで45度の角度のところ

で体の正面でしっかり籐頭を持つ。右手が迎えに行けていない人が多い」と御指摘をいただきました。須田先生から、弓道教本3巻の進坐、退坐のお話の解説があり「射位に進む前も引いた後も気を抜かないことが重要であること」、西中先生の御指摘と同様に「腰が抜けている人が多いこと」「足踏みが真っすぐでない人が多いこと」「左肩で的をみる意識、物見で体を開かない意識が大切であること」「引き分けの押しが弱いこと」の御指摘をいただきました。

午後は、一手行射の後に2射場に分かれて全員が一つの射礼を行い、その後、4人立2射場の射技指導を



射技指導をうける受講生たち

一手2回受けました。

一手行射の講評では、西中先生から「雰囲気

があつたが的中があまり出ず、的中も必要なこと」「気温が上がり、肌脱ぎ時に服装が乱れやすいので工夫をすること」「着装を整えること」の御指摘があり、須田先生から「上級者でも基本通りにできていない所作があった」「的にとらわれて引いている射がみられる」「残心(残身)の重要性。基本は残“心”であること。初段から[気力ある残心]が審査統一基準にあり、気合のこもった残心が重要であること」「心と体が一つである生気体が重要であること」「定め座での礼も単に礼をするのではなく、気持ちをこめて礼をすること」という御指摘をいただきました。

須田先生、西中先生ありがとうございました。皆さんの中央審査での良い結果の報告を期待しています。頑張ってください。(指導部 吉本清巳)

奈良県高等学校新人大会兼学年別弓道大会

西部地区、東部地区別に開催

令和3年度の標題の大会が橿原公苑弓道場において開催されました。2月5日、6日に行われる予定だった本大会は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、日程を延期しての開催となりました。よって3年生の部は中止となり、1・2年生の部のみの開催となりました。

西部地区 令和4年3月26日(土)開催

女子団体 1年

- 1位 法隆寺国際A (野村美優 戸田和那 水瀬陽万梨)
- 2位 法隆寺国際B (岡本紗良 住吉依香 寺嶋来望)
- 3位 高田商業A (吉川妃依 山中心美 杉本采蓮)

2年

- 1位 高田商業A (杉田詩織 加登なる 武村亜美)
- 2位 五條B (仲川沙英 東甘菜 谷村菜都美)
- 3位 高田商業C (東夢羽 中彩乃 谷口秋紗)

男子団体 1年

- 1位 法隆寺国際B (安達冬弥 野中奎吾 往西漣)
- 2位 法隆寺国際A (小川煌太 北村大悟 山口天愛)
- 3位 五條A (竹林夕騎 北川羽琉 田中陽士)

2年

- 1位 高田商業A (島本歩暉 福本涼太 山口圭太郎)
- 2位 西の京B (工藤巧真 長谷川桔平 榊創太)
- 3位 橿原A (森本大悟 麦林知樹 西村海都)

男子個人 1年

- 1位 平田壯吾 (橿原)
- 2位 北村大悟 (法隆寺国際)
- 3位 北川羽琉 (五條)

2年

- 島本歩暉 (高田商業)
- 榊創太 (西の京)
- 山口圭太郎 (高田商業)

女子個人 1年

- 1位 住吉依香 (法隆寺国際)
- 2位 伊藤寛奈 (五條)
- 3位 戸田和那 (法隆寺国際)

2年

- 神谷陽里 (西の京)
- 冷水あさみ (青翔)
- 加登なる (高田商業)



上段・女子、下段・男子 左から1年、2年の入賞者

東部地区 (1月31日開催)

女子団体 1年

- 1位 桜井A (金原由良 河村優 金澤由乃)
- 2位 郡山B (小川愛加 上山美希子 橋本歩美花)
- 3位 郡山C (今泉杏 天竺若菜 吉川未悠)

2年

- 1位 桜井B (寫岡奈月 吉村美咲 藤本奏深)
- 2位 郡山C (鮫島絢 加藤明莉 嵯峨晴風)
- 3位 奈良F (高木彩葉 高田彩帆 植田菜月)

男子団体 1年

- 1位 畝傍D (橋本仁志 奥野泰知 橋本庵治)
- 2位 桜井B (永山琉人 西口佳希 森下忠慶)
- 3位 桜井A (岡田昂己 山本洋輔 荒木快)

2年

- 1位 郡山A (山口高広 藤田悠馬 中井雄大)
- 2位 畝傍C (仲川航平 古川勇武 田中孝大)
- 3位 桜井C (藤岡泰生 川端陽大)

男子個人 1年

- 1位 橋本 仁志 (畝傍)
- 2位 岡田 昂己 (桜井)
- 3位 奥野 泰知 (畝傍)

2年

- 藤田 悠馬 (郡山)
- 藤岡 泰生 (桜井)
- 田中 孝大 (畝傍)

女子個人 1年

- 1位 多田 有希 (奈良)
- 2位 山口 美羽 (桜井)
- 3位 廣谷 萌音 (郡山)

2年

- 藤本 奏深 (桜井)
- 杉岡 果穂 (郡山)
- 吉村 美咲 (桜井)



上段・女子、下段・男子 左から1年、2年の入賞者



左から1年、2年の個人入賞者

(高体連 布施慈人)

大和郡山市お城まつり弓道大会

三段以下:1位は兵頭選手、四段以上:1位は高橋選手、最高得点賞は仲倉選手

4月3日(日)2年ぶりに標題の大会が、やまと郡山城ホール武道場弓道場で開催されました。春爛漫、郡山城址周辺の桜は満開でしたが、生憎の花冷えの雨天の中、県内各地から約80名の参加者にお集まり頂きました。県内でも唯一採点制で競技が行われる大会で、参段以下の部と四段以上の部に分かれて一次、二次予選及び決勝の演武を審査統一基準に照らして四名の先生方が持点200点で採点されます。当協会の取り組みの一環として若手弓士中心の運営を試みていることから、採点審判委員の先生方についても同様の方針転換を試み、奈弓連から西浦範光先生を採点審判委員長として、吉本清巳先生を採点審判委員としてお招きし、当協会の須田三郎会長及び藤岡順副会長と共に審査に当たって頂きました。進行係として皆さんの演武を間近で見て、特に決勝に残られた選手の皆さんの射技・体配共に見応えのある素晴らしく、来年こそは私も決勝の舞台で弓を引きたいと強く思いました。

閉会式で採点審判長の西浦先生から以下の講評がありました。

・特に称号者は、射品射格について意識して貰いたい。射品射格は、隙のない射・隙のない構えから生まれる。無駄のない動きを心掛けて欲しい。

・全体的に足踏み後の右足の位置や角度がずれていた。気を付けて欲しい。

○結果は以下の通りです。

・参段以下の部

1位 兵頭拓磨(参段 奈弓連)	高橋悟史(錬五 郡山)
2位 上垣智美(弐段 檀原)	仲倉牧子(四段 檀原)
3位 藤田由貴子(初段 郡山)	江浦至希子(四段 郡山)

・四段以上の部

三段以下の部

左から
上垣さん、兵頭さん
藤田さん

四段以上の部

左から
仲倉さん、高橋さん、
江浦さん



・最高得点者

仲倉牧子 635点

○参加者

・参段以下の部 38名

(欠席者1名)

・四段以上の部 38名 (欠席者2名)

年度初めのお忙しい中、採点審判委員を引き受けて下さった先生方に改めて御礼申し上げます。来年は、コロナが収束しより多くの皆様にご参加頂けること、そしてこの採点制のお城まつり大会が今後もより盛会になるようにと願っております。引き続きお城まつり弓道大会並びに当協会の運営へのご理解ご協力をお願い致します。(郡山支部 原 貢)



最高得点者 仲倉さん

檀原市弓道体験スクール

生涯スポーツとしての弓道を体験

檀原市弓道協会は、4月7日(木)に弓道体験スクールを昨年に引き続き開催しました。本年も檀原市と明治安田生命保険相互会社間の包括連携協定に基づく「地元の元気プロジェクト」として、健康増進・スポーツ振興を目的と市、檀原市からの委託事業として開催、午前・午後の2部制で合計32名に参加頂きました。また、亀田市長も午前の部で体験して頂きました。弓道体験を目的としていますので、所作や体配はとりあえず置いておき、的に向かって矢を射るということを楽しんでもらいました。18歳から81歳まで幅広い年代の方々に参加頂き、弓道が生涯スポーツとして若者から高齢者まで行えるものであることを体現して頂きました。



弓道体験する亀田市長

5月からは弓道を始めたい人向けの初心者スクールを開催しており、今回の体験スクール参加者からも初心者スクールへの申込がありました。体験から初心者スクール、更に協会員へとつながっていくことと弓道振興の入り口として有意義なスクールになったと思います。(檀原市弓道協会 衛藤博史)

編 | 集 | 後 | 記

各方面からの活発な活動報告があり、皆様に明るい話題をお届けすることができました。感謝いたします。今年度もよろしく願いいたします。(編集 松澤)